

2022年度まちづくりネットモニター第8回調査結果  
テーマ「食品ロスについて」



国では、環境大臣が環境先進企業を認定する「エコ・ファースト制度」をはじめ、2019年10月施行の「食品ロス削減の推進に関する法律」に基づき、国民運動として環境保全や食品ロス削減の取組みが進められていますが、2020年度には、本来食べられるのに捨てられる「食品ロス」が約522万t発生しています。

また、本市は、2020年度食品ロスも含めた市民一人当たりのゴミ排出量が1,190gで62ある中核市の中でワースト1位となっております。

これらに対応するため、本市では3R推進課を中心とし、2020年4月に庁内関係部局により「食品ロス削減推進担当連絡会」を設置し、関係部局が連携して調査・研究を進めております。この度、市民の消費生活の観点から、食品ロスについて市民の皆様の認知度を把握し、今後の取組みの参考とするため、アンケートを実施しましたので、その結果についてお知らせします。

### 調査概要

- 調査期間 2022年8月22日(月)～8月31日(水) (10日間)
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を送信する。
- モニター数 360名 (男性 178名 女性 182名)
- 回答者数 317名 (男性 157名 女性 160名)
- 回答率 88.1%

### 【分析】

《回答者内訳(人)》

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	0	5	12	30	39	24	33	14	157
女性	2	9	29	49	46	23	2	0	160
合計	2	14	41	79	85	47	35	14	317

《食品ロスについて》

- ・「食品ロス」について全体の95.3%が「知っている」と回答。(問1)
- ・「賞味期限」「消費期限」の言葉の違いについて全体の88%が「知っている」と回答し、あえて賞味期限・消費期限が近付いたものを買うと回答したものは全体の15.5%であったが、安くなっている場合は買うと回答したものは全体の58.7%であった。(問3.5.6)

《ごみ削減に向けた取組みについて》

- ・郡山市の1人1日あたりのごみ排出量が全国の中核市の中で最も多いという環境省の調査結果について全体の54.3%が「知らない」と回答。(問13)
- ・プラスチックごみ問題については、33.1%が「非常に興味がある」、58%が「ある程度興味がある」と回答。(問15)

《生活全般や消費生活における意識や行動について》

- ・エシカル消費(倫理的消費)(※)という言葉について全体の57.7%が「知らない」と回答。(問17)
- ・前回調査(2020年)の結果と比較すると、エシカル消費(倫理的消費)に該当する行動について、より高い割合で行っていることが読み取れる。(問19～22)
- ・消費者ホットライン188について全体の40.7%が「名前・番号どちらも知らない」と回答。(問23)

※ エシカル消費とは買い物をするとき、価格や品質だけでなく、環境への負担やその商品を作っている人達の人権、労働条件など社会的な背景まで考慮して商品や企業を選ぶこと。

### 【考察】

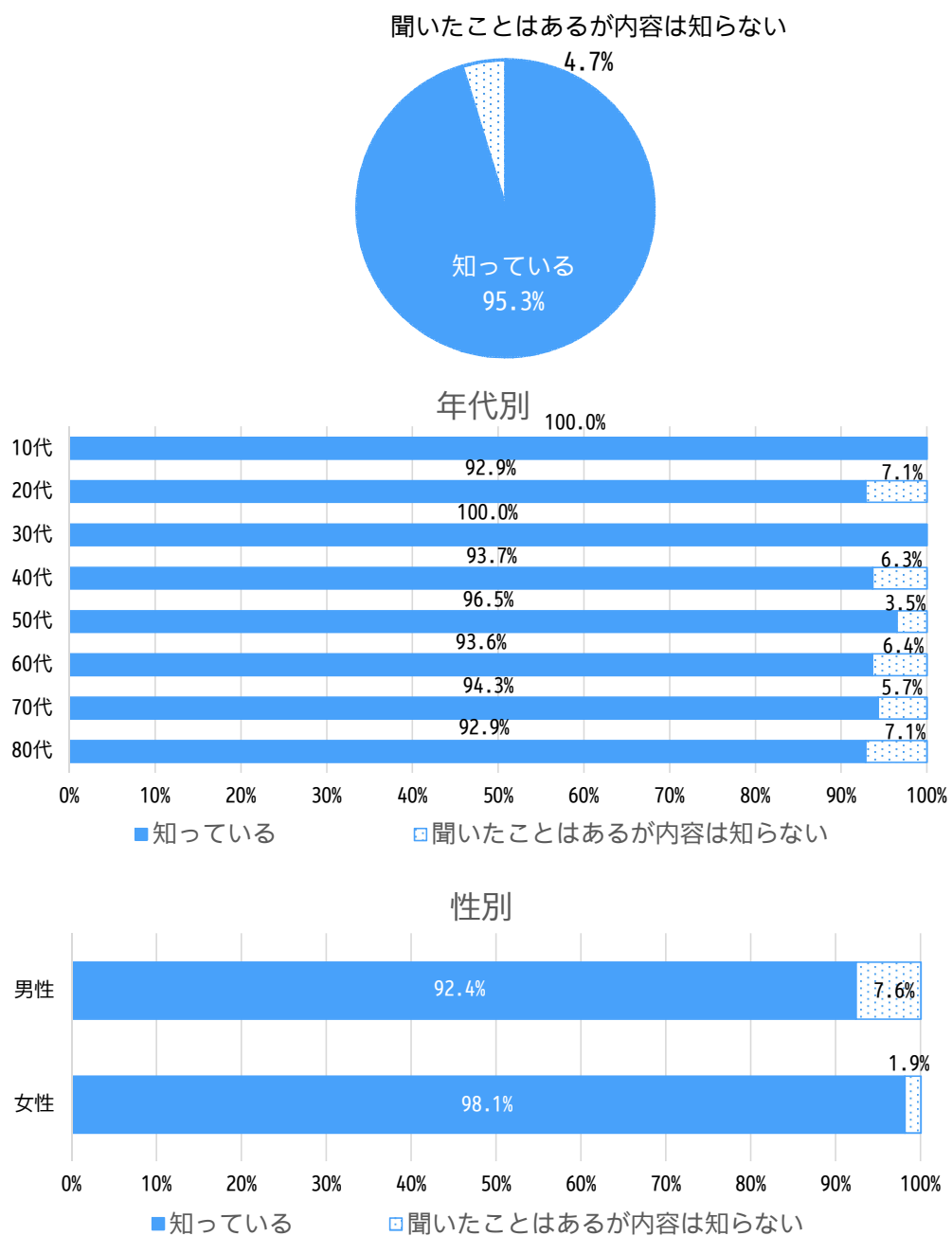
- ・今回の調査で「食品ロス」の認知度は95.3%、関心度は92.8%に達しており、年齢や性別に関係なく浸透していると考えられるが、より多くの方へ「食品ロス」を意識してもらうためさらなる情報発信及び環境教育の推進を図ることが必要である。
- ・郡山市のごみ排出量が全国の中核市の中で最も多いことを「知らなかった」が54.3%であり、ごみ排出量の減量等の意識を持つことの大切さを周知していくことやごみ削減につながる具体的な取組みの周知が重要である。
- ・エシカル消費(倫理的消費)についての認知度は低いが、前回調査と比較しても、それに該当する行動をとっている方が、高い割合でいることが推測できる。今後は一つ一つの消費行動が与える社会や環境への影響を理解してもらえよう、電子媒体、講座等により、さらなる周知を進めることが重要と考えられる。

※構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

## 第1章 食品ロスについて

### 問1 「食品ロス」をご存じですか？（1つ選択）

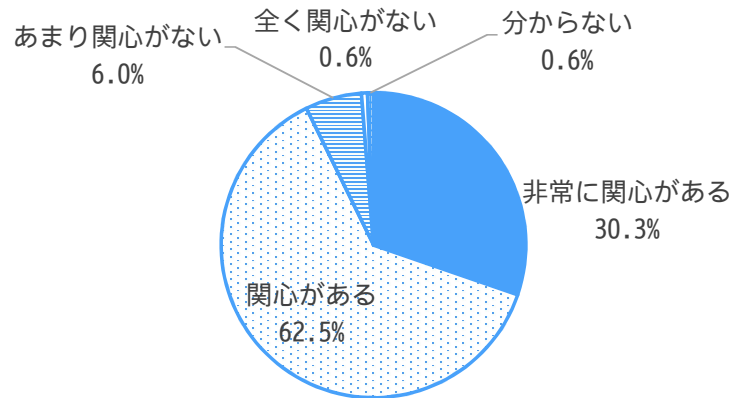
（回答者：317人）



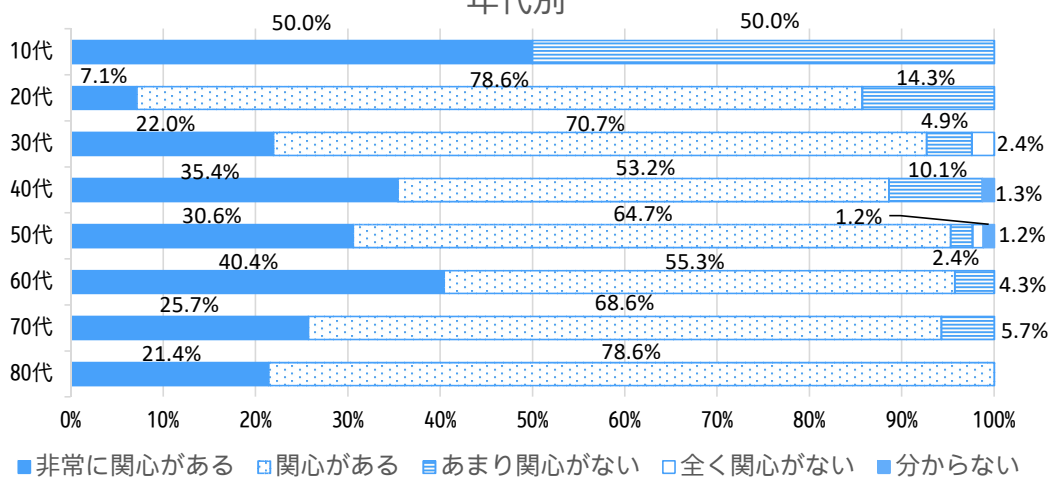
食品ロスについて、全体の95.3%が「知っている」と回答。  
年代別では、全ての年代で認知度が90%以上と高い割合となっている。

問2 「食品ロス」についてどの程度関心がありますか？（1つ選択）

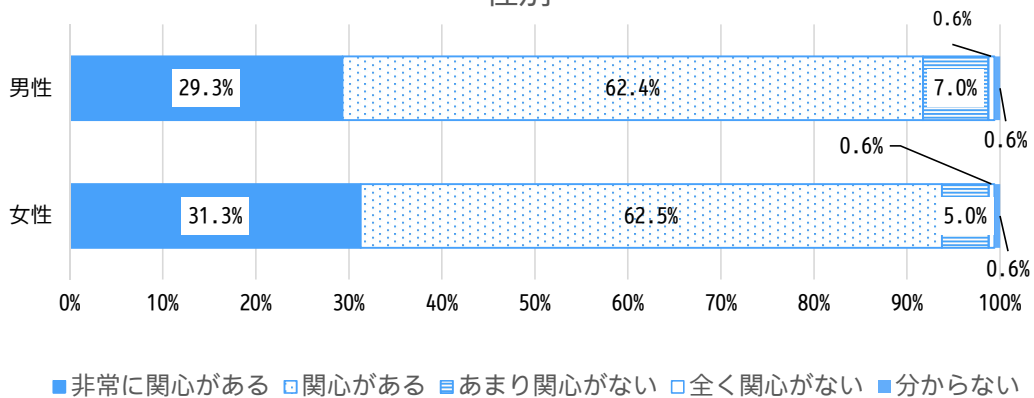
（回答者：317人）



年代別



性別

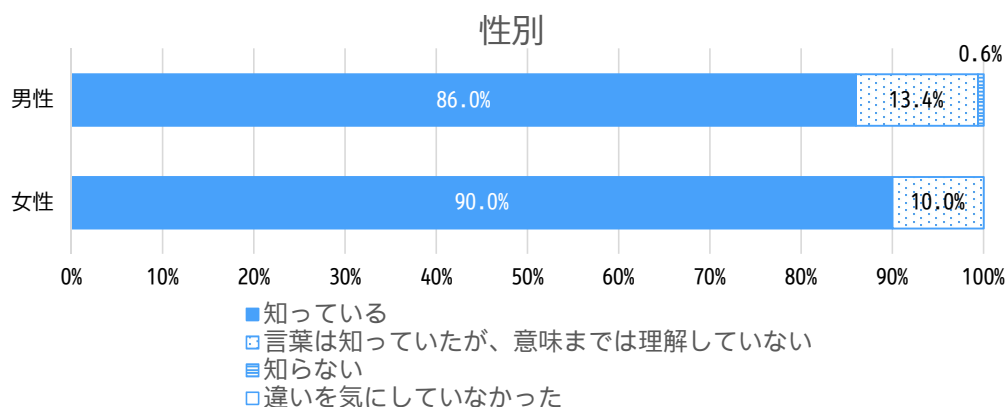
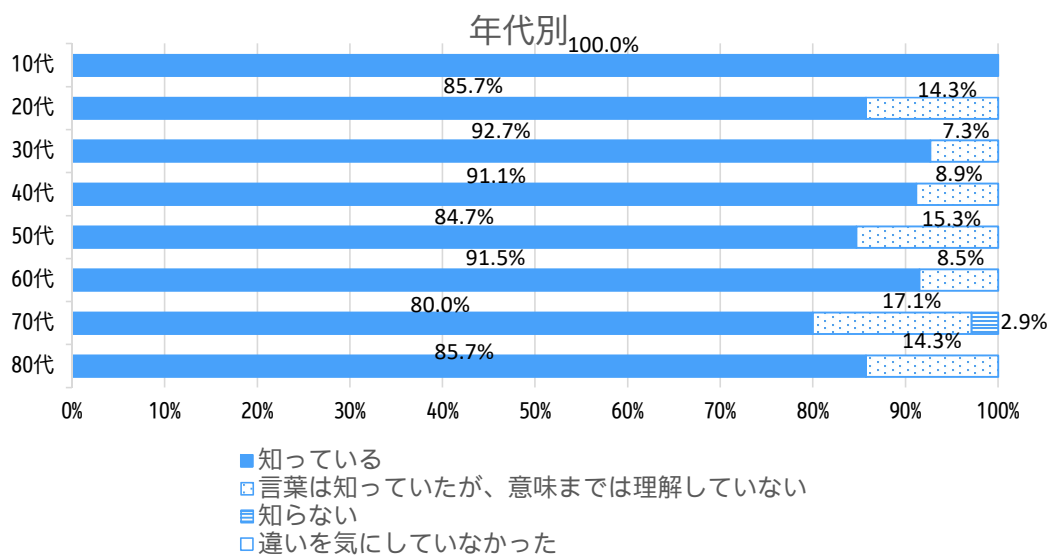
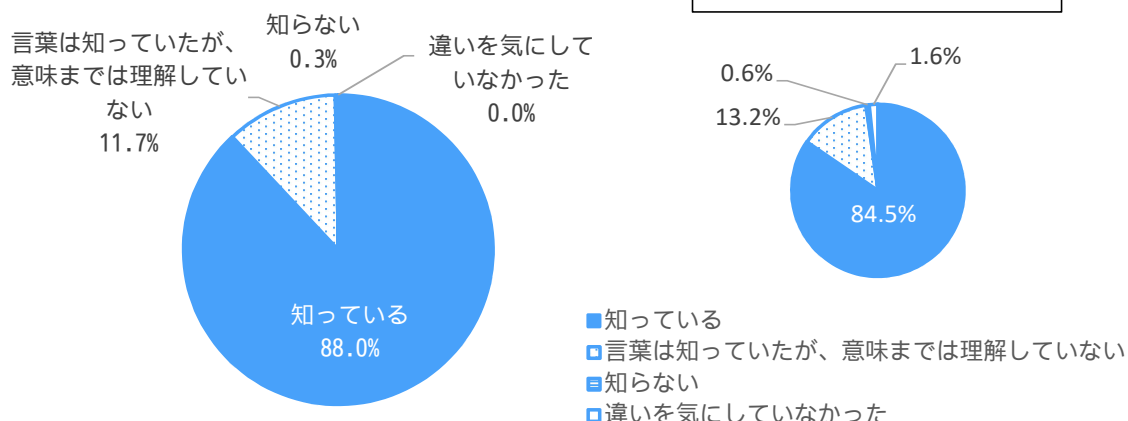


食品ロスに「非常に興味がある」「興味がある」と回答した方は、全体の92.8%であり、全体的に食品ロスに関心が高い傾向が見受けられる。

問3 「賞味期限（※1）」 「消費期限（※2）」の意味の違いをご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：317人）

2020年度の調査結果



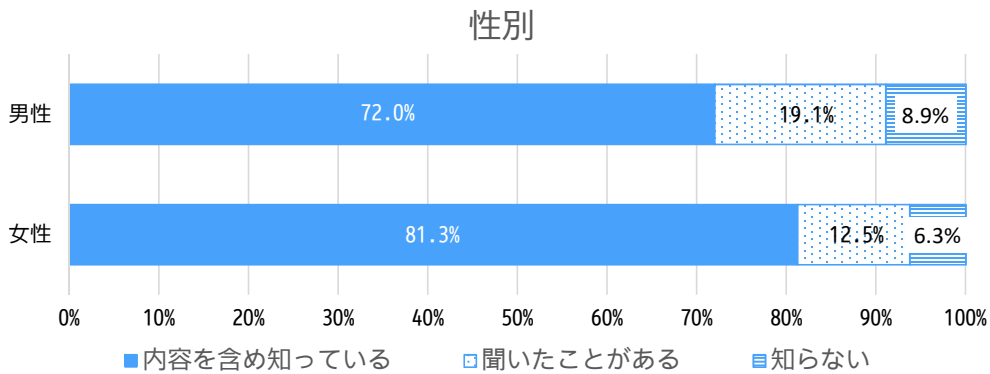
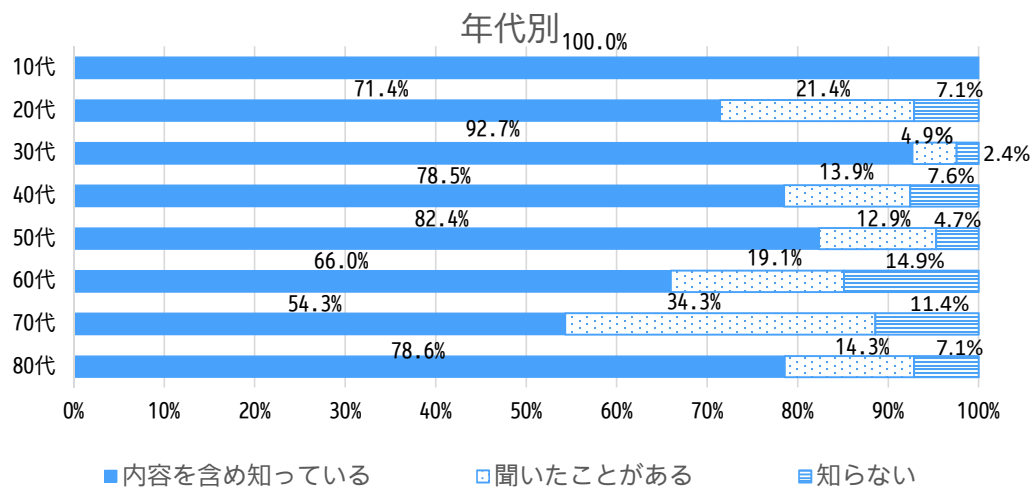
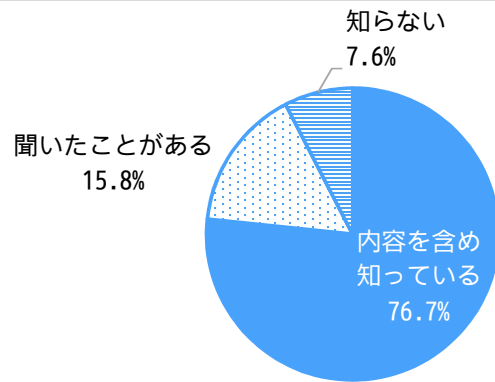
賞味期限と消費期限の違いについて、「知っている」88.0%の割合が最も高く、前回調査と比べ3.5ポイント高くなっている。  
年代別では、どの年代においても80%を超えており高い理解度が示されている。

(※1)賞味期限：袋や容器を開けないままで、書かれた保存方法を守って保存していた場合に「品質が変わらずにおいしく食べられる期限」のことで、スナック菓子や乳製品、缶詰などに表示されています。この期限を過ぎても、すぐに食べられなくなるということはありません。

(※2)消費期限：袋や容器を開けないままで、書かれた保存方法を守って保存していた場合に「安全に食べられる期限」のことで、弁当、サンドイッチ、生麺、ケーキなど、傷みやすい食品に表示されています。

問4 「てまえどり(※)」という言葉をご存じですか？

(回答者：317人)

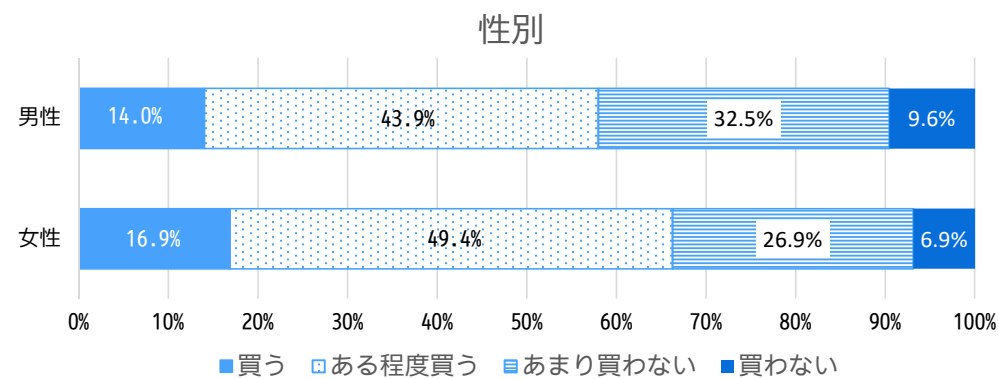
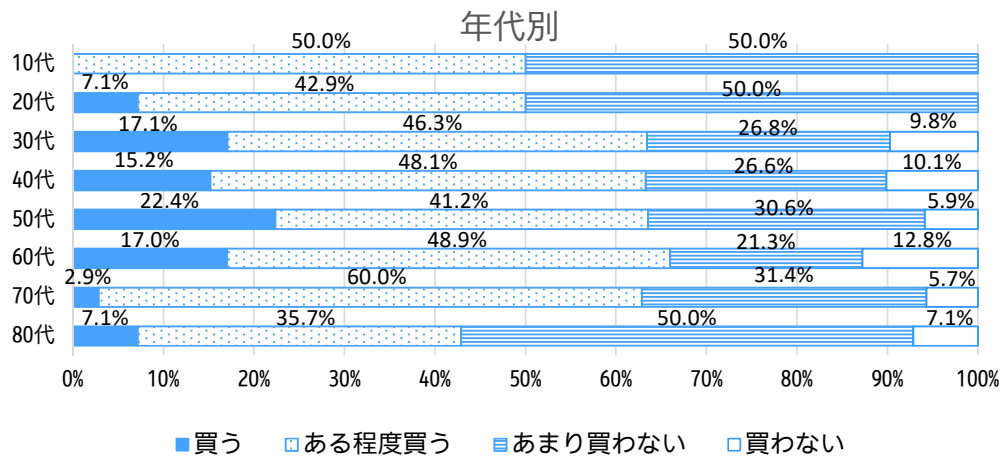
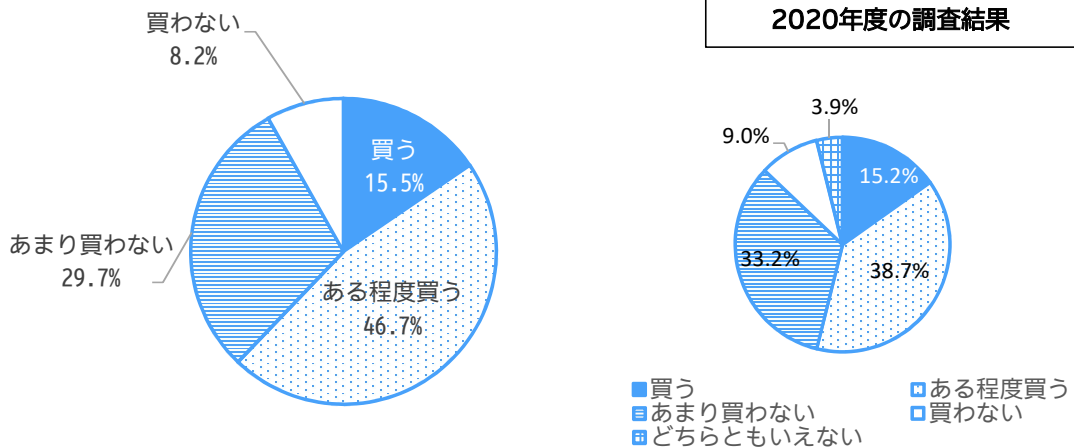


てまえどりについて、「内容を含めて知っている」と「聞いたことがある」の合計割合は92.5%となっており、てまえどりの認知度は9割を超えている。  
年代別では10代及び30代は「内容を含めて知っている」が90%以上で認知度が高い。

(※) てまえどり：購入してすぐに食べる場合に、商品棚の手前にある商品等、販売期限が迫った商品を積極的に選ぶ購買行動

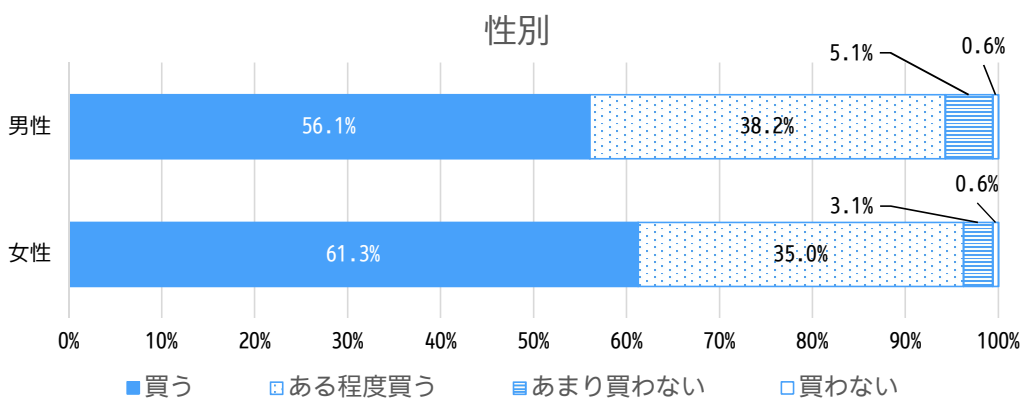
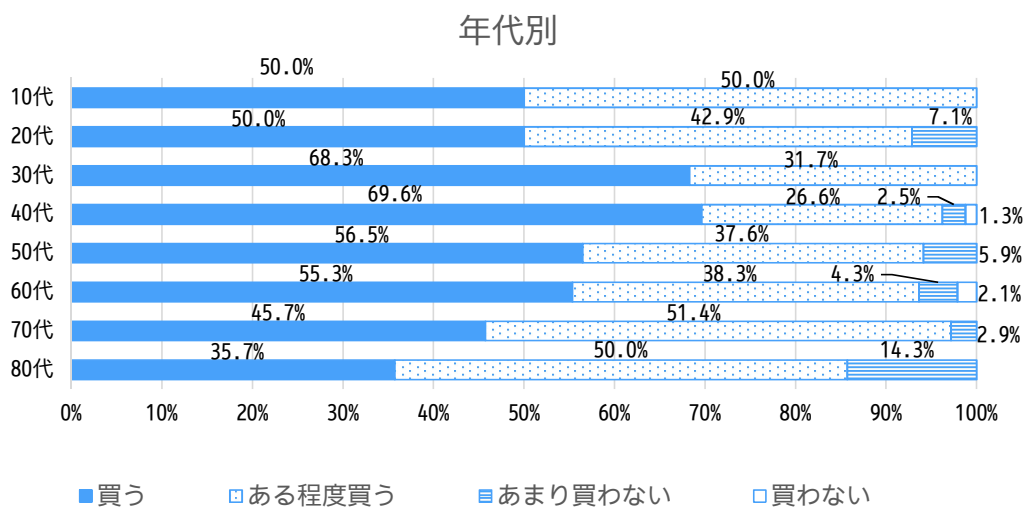
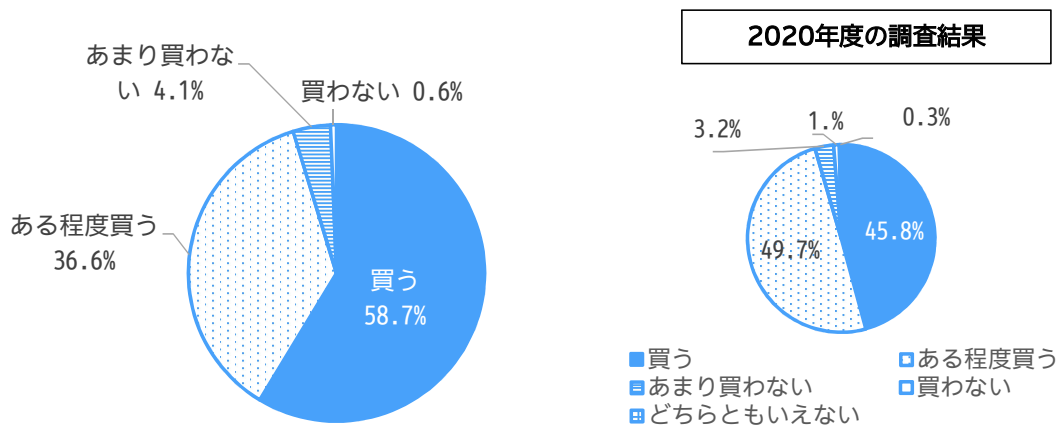
問5 賞味期限・消費期限が近づいたものをあえて買いますか？（1つ選択）

（回答者：317人）



賞味期限・消費期限が近づいたものを「買う」が15.5%、「ある程度買う」が46.7%で、合計で62.2%となっている。  
 前回調査と比較すると、8.3ポイント上昇している。

問6 賞味期限・消費期限が近づいても、安くなっていれば買いますか？（1つ選択）  
（回答者：317人）

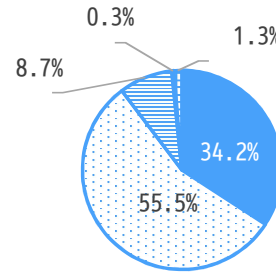
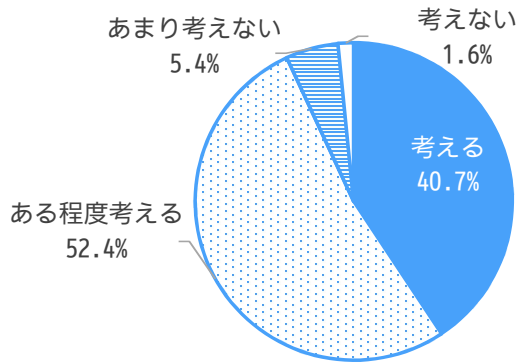


安くなっていれば「買う」が58.7%、「ある程度買う」が36.6%であり、合計で95.3%となっている。  
前回調査よりも「買う」と回答した方は12.9ポイント増えている。

問7 買い物に行く前に買うもの（食品）を考えますか？（1つ選択）

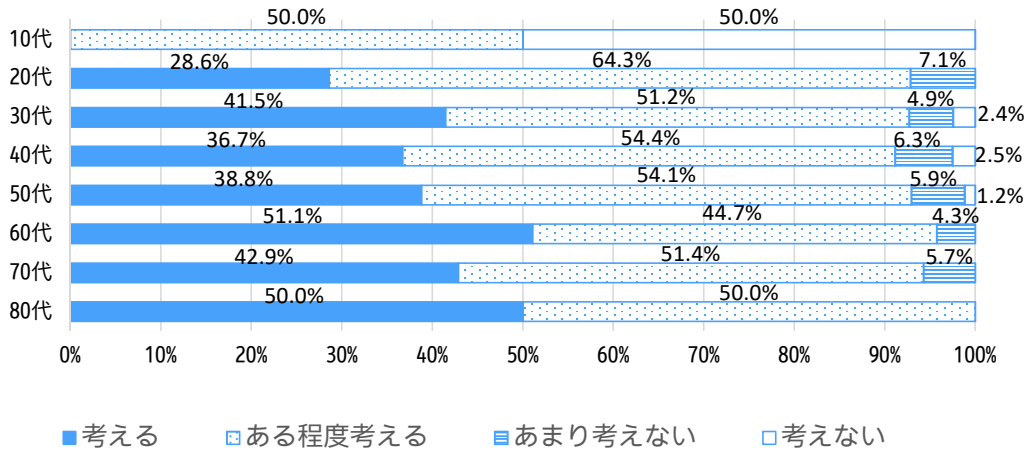
（回答者：317人）

2020年度の調査結果

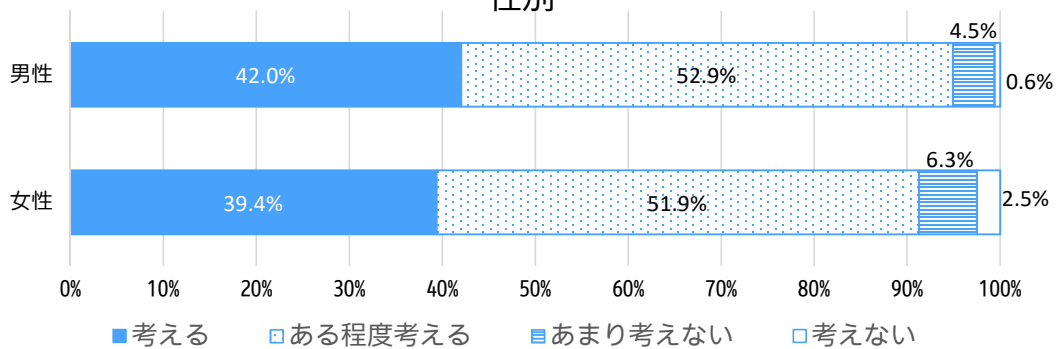


- 考える
- ある程度考える
- あまり考えない
- 考えない
- どちらともいえない

年代別



性別



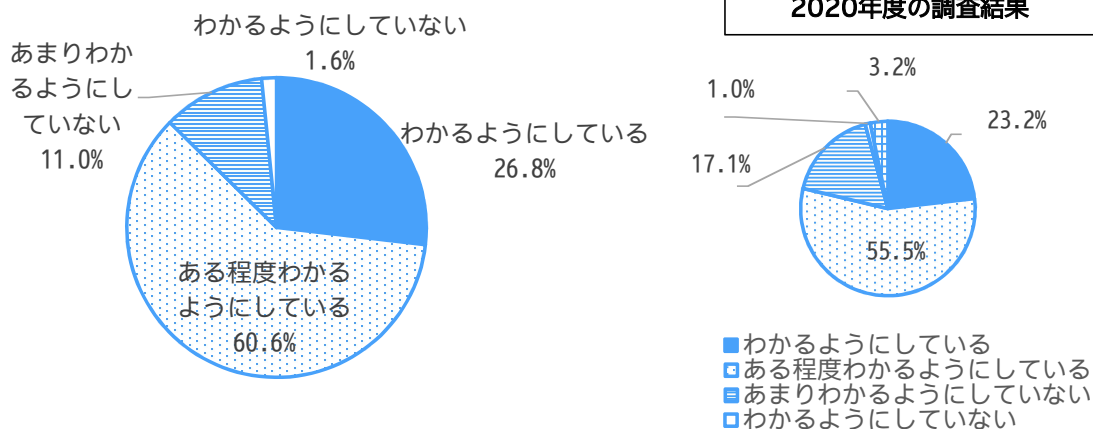
全体の40.7%が「考える」、52.4%が「ある程度考える」と回答し、両者の合計は93.1%となっている。  
 前回調査よりも「考える」と回答した方が6.5ポイント多くなっている。



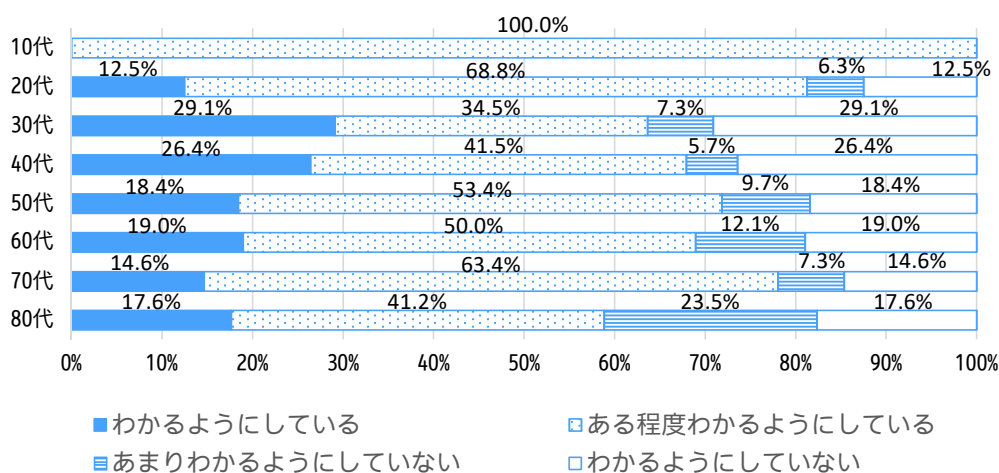
問8 冷蔵庫、食品庫に詰め込み過ぎず、何が入っているか常にわかるようにしていますか？(1つ選択)

(回答者：317人)

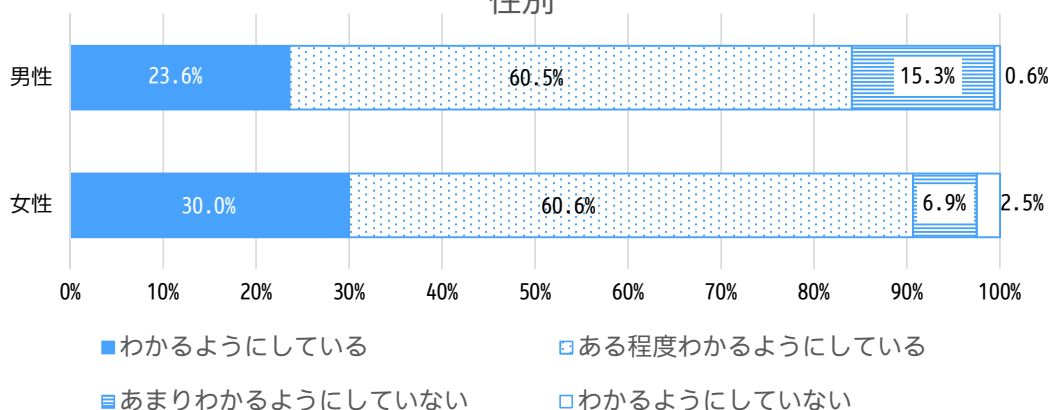
2020年度の調査結果



年代別



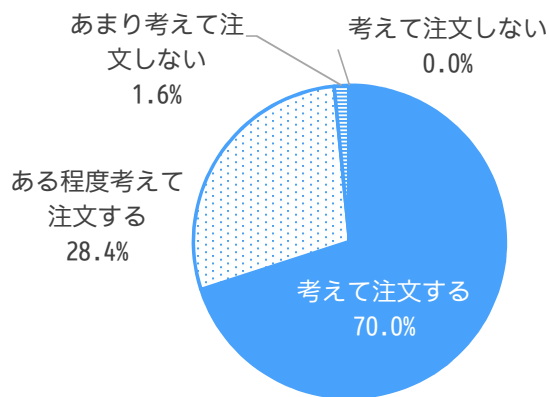
性別



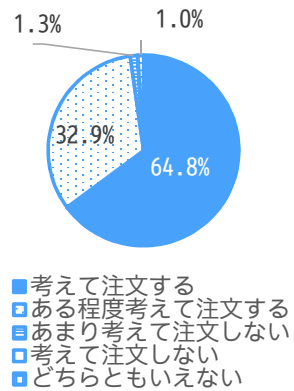
冷蔵庫、食品庫に何が入っているか、26.8%が「わかるようにしている」、60.6%が「ある程度わかるようにしている」と回答し、合計で87.4%であり、前回調査よりも8.7ポイント多くなっている。  
年代別では30代で「わかるようにしている」と回答した人が29.1%で最も多い。

### 問9 外食時、食べきれる量を考えて注文していますか？（1つ選択）

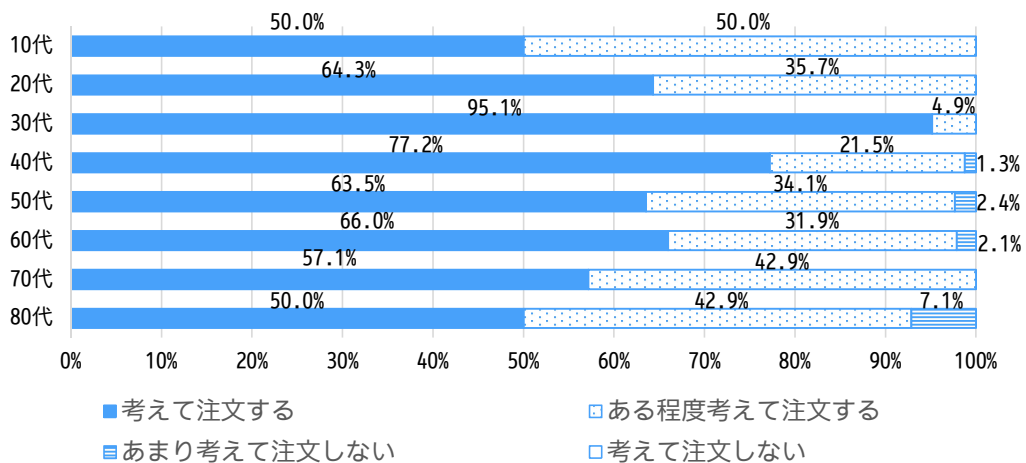
（回答者：317人）



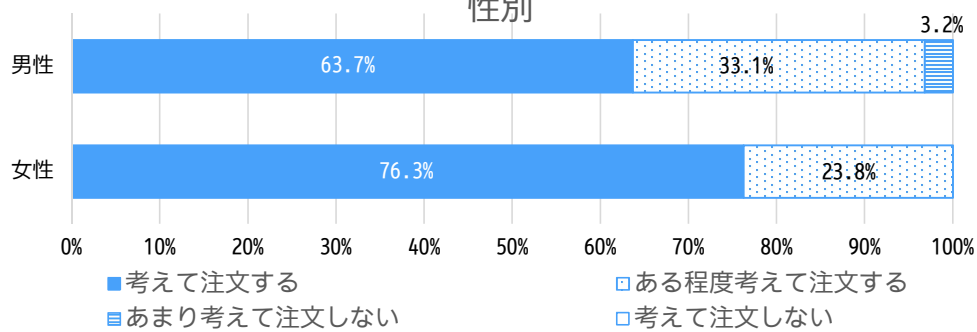
#### 2020年度の調査結果



#### 年代別



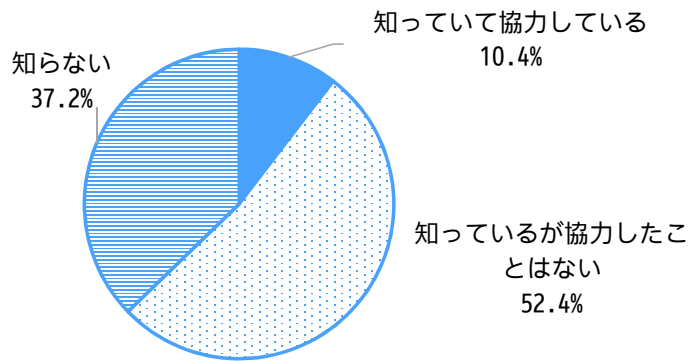
#### 性別



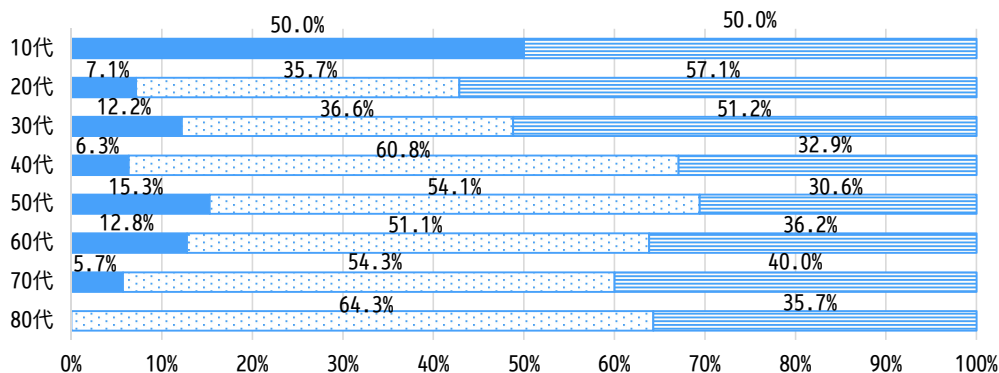
外食時、食べきれる量を考えるかについて、70.0%が「考えて注文する」、28.4%が「ある程度考えて注文する」と回答し、合計で98.4%となっている。  
 前回調査と比較し「考えて注文する」と回答した方が5.2ポイント増加した。  
 年代別では30代で「考えて注文する」が95.1%と高い割合になっている。

問10 「フードバンク（※1）」 「フードドライブ（※2）」という言葉をご存じですか？

(回答者：317人)

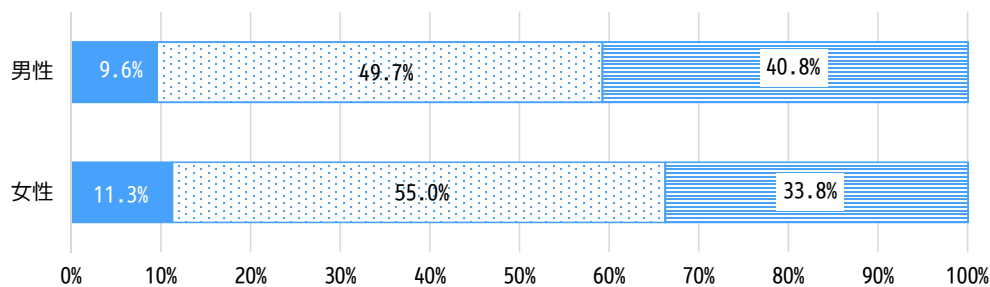


年代別



■ 知っているが協力している □ 知っているが協力したことはない ■ 知らない

性別



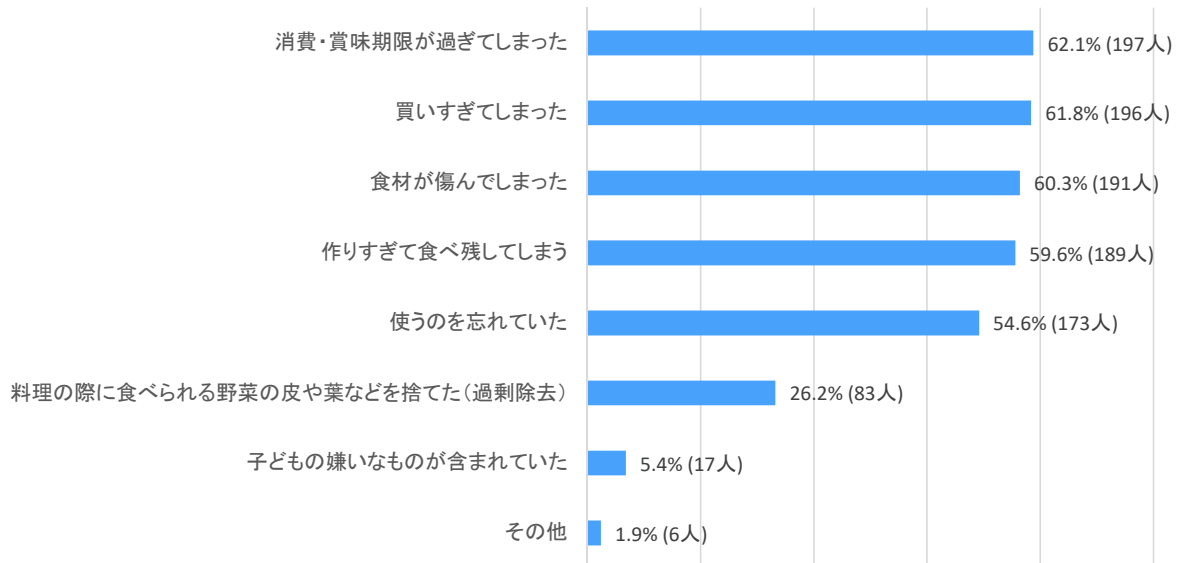
■ 知っているが協力している □ 知っているが協力したことはない ■ 知らない

「フードバンク」「フードドライブ」という言葉について、10.4%が「知っているが協力している」と回答しているが、52.4%は「知っているが協力したことはない」と回答している。

- (※1) フードバンク：食品を取り扱う企業や農家などからまた食べられるのに廃棄されてしまう食品を引き取り、福祉施設等へ無償で提供する団体や活動
- (※2) フードドライブ：家庭で余っている食品を集めて、食品を必要としている地域のフードバンク等の生活困窮者支援団体、子ども食堂、福祉施設等に寄付する活動

問11「家庭から」の食品ロスは全国で247万トン（※）出ていると推計されています。  
家庭での食品ロスの原因は何だと思えますか？（複数選択可）  
（※）令和2年度

（回答者：317人）



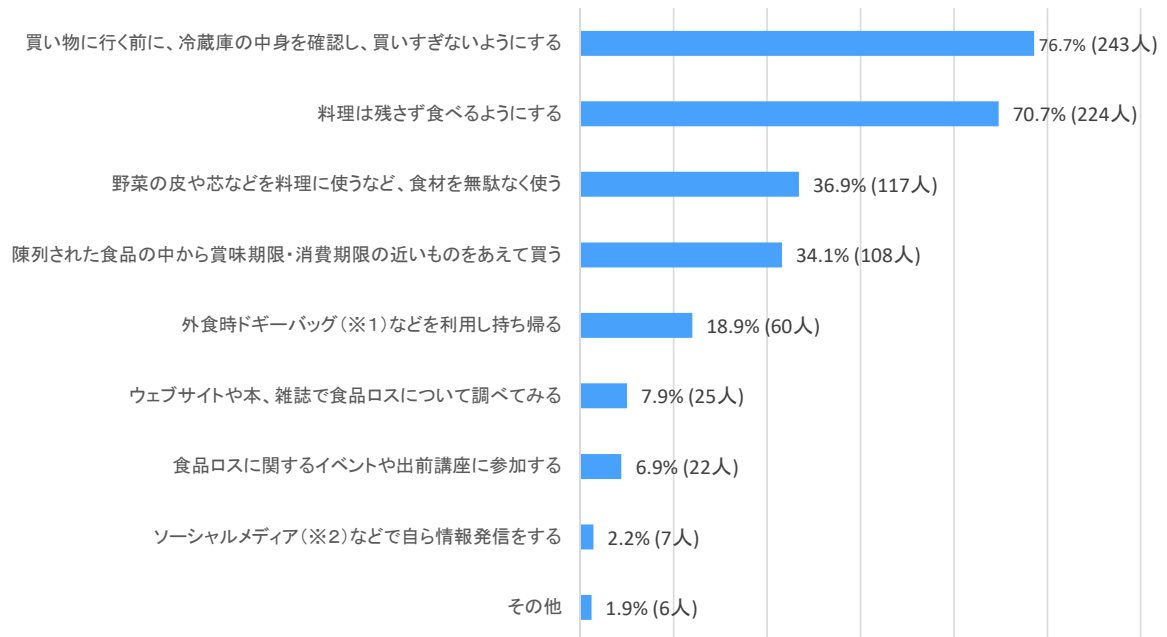
◆「その他」を選択した方の主な意見

- ・お弁当などセットで購入した際、不要なものや食べられないものが含まれている。
- ・使い切る前に食材を買ってしまうことで、忘れることがある。

「消費・賞味期限が過ぎてしまった」が62.1%ともっとも多く、次いで「買いすぎてしまった」が61.8%、「食材が傷んでしまった」が60.3%となっている。

## 問12 食品ロス削減に向けて取り組んでみたいことは何ですか？（複数選択可）

（回答者：317人）



### ◆「その他」を選択した方の主な意見

- ・野菜の皮や芯など無駄なく使うための料理講座などあればよいと思う。
- ・冷蔵庫等の在庫品をメモしておく。

「買い物に行く前に、冷蔵庫の中身を確認し、買いすぎないようにする」が76.7%でもっとも高く、次いで「料理は残さず食べるようにする」が70.7%、「野菜の皮や芯などを料理に使うなど、食材を無駄なく使う」が36.9%となっている。

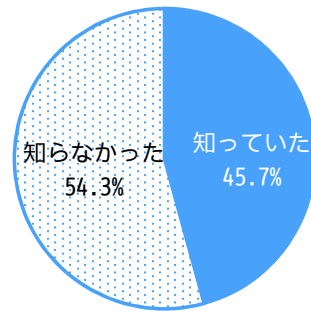
(※1) ドギーバッグ：食べ残しを持ち帰るための容器

(※2) ソーシャルメディア：インターネット上のコミュニケーションを通して、情報の共有や拡散が生まれる媒体のこと。フェイスブック、ツイッター、インスタグラム、YouTube、ブログ等

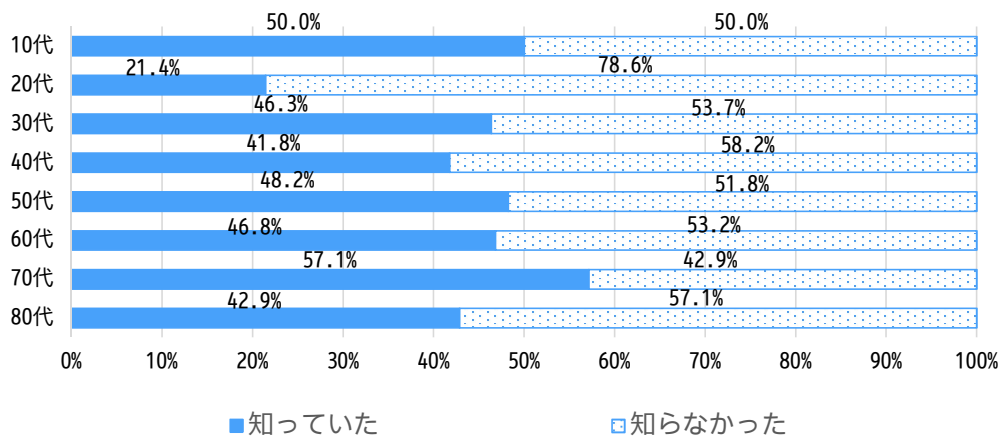
## 第2章 ごみ削減に向けた取り組みについて

問13 環境省の2020年度の調査結果によると、郡山市の1人1日あたりのごみ排出量が全国の中核市62市中、最も多いことが明らかになりましたが、この結果をご存知でしたか？（1つ選択）

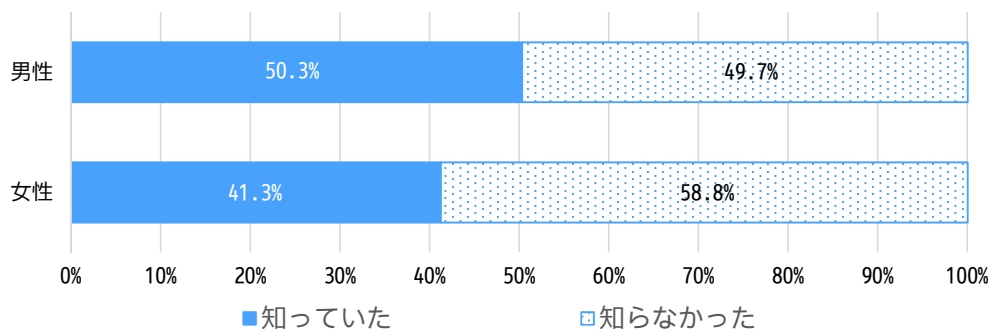
（回答者：317人）



年代別



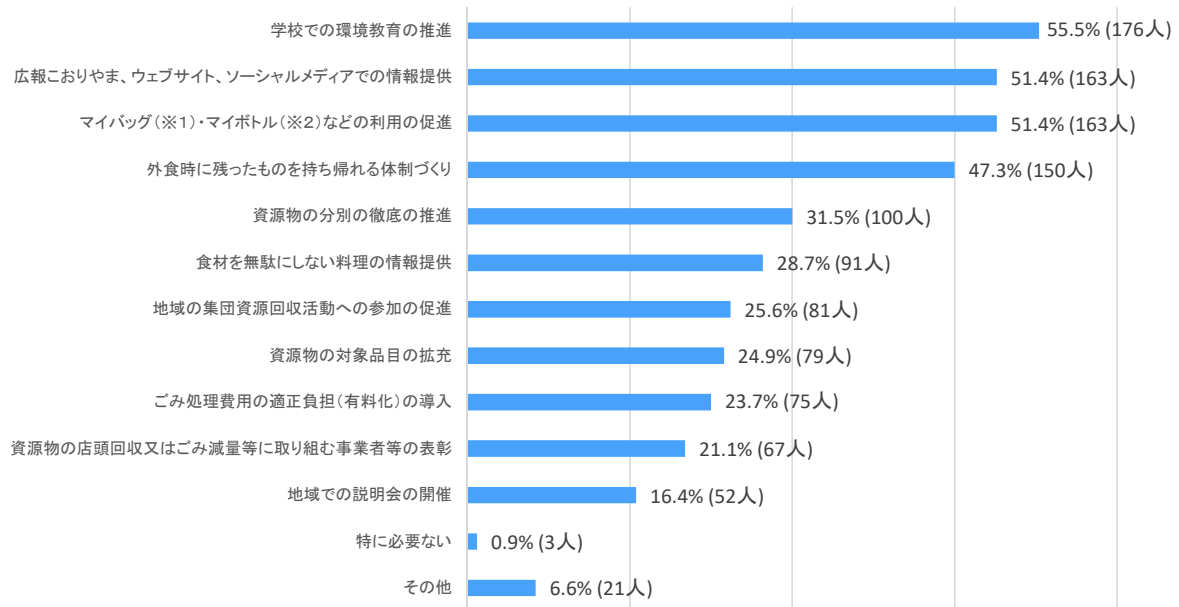
性別



郡山市のごみの排出量が中核市の中で最も多いことについて、全体の54.3%が「知らなかった」と回答。  
年代別では、すべての年代で約半数が「知らなかった」と回答しており、ごみ排出量の減量等の意識を持つことの大切さやごみ削減につながる具体的な取り組みの周知が必要である。

問14 今後郡山市では「食品ロス削減」を含めた「ごみ削減」に向けてどのようなことに力を入れるべきだと思いますか？  
また、ごみ削減のアイデアがあればその他に記入してください。（複数選択可）

(回答者：317人)



◆「その他」を選択した方の主な意見

- ・野菜くず等食品廃棄物は、敷地内で肥料づくりに使う。
- ・他自治体先進事例の紹介

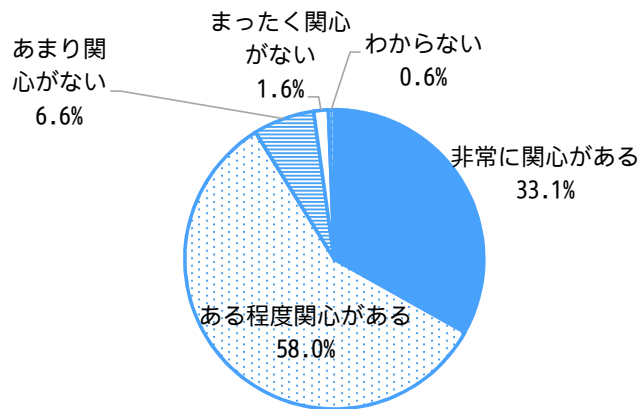
「学校での環境教育の推進」が55.5%ともっとも高く、次いで「広報こおりやま、ウェブサイト、ソーシャルメディアでの情報提供」及び「マイバッグ・マイボトルなどの利用促進」がそれぞれ51.4%となっている。

(※1) マイバッグ：目の前の買い物袋

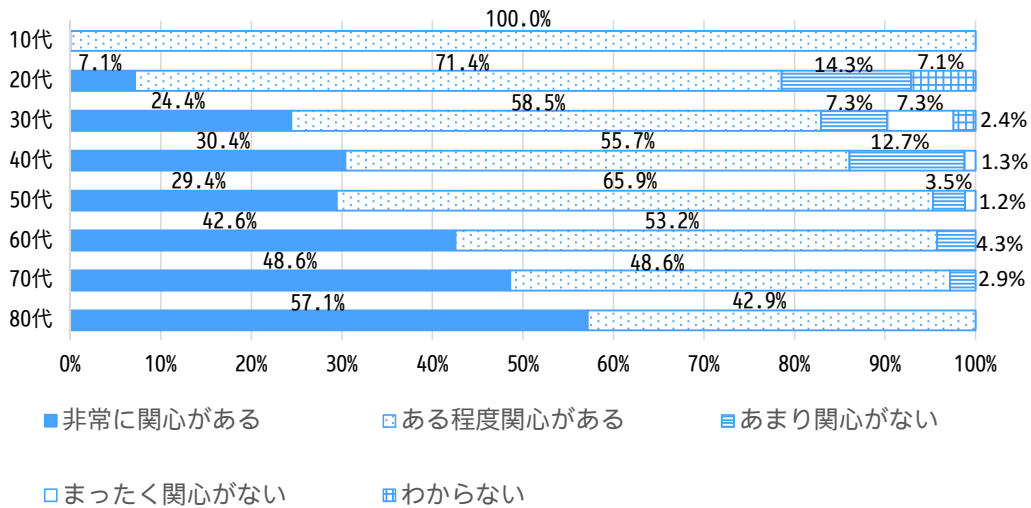
(※2) マイボトル：自分用の飲み物を入れて携帯する水筒

問15 2022年4月、プラスチックごみのリサイクル強化や排出削減に向けた「プラスチック資源循環促進法」が施行されました。プラスチックごみ問題へ関心はありますか？

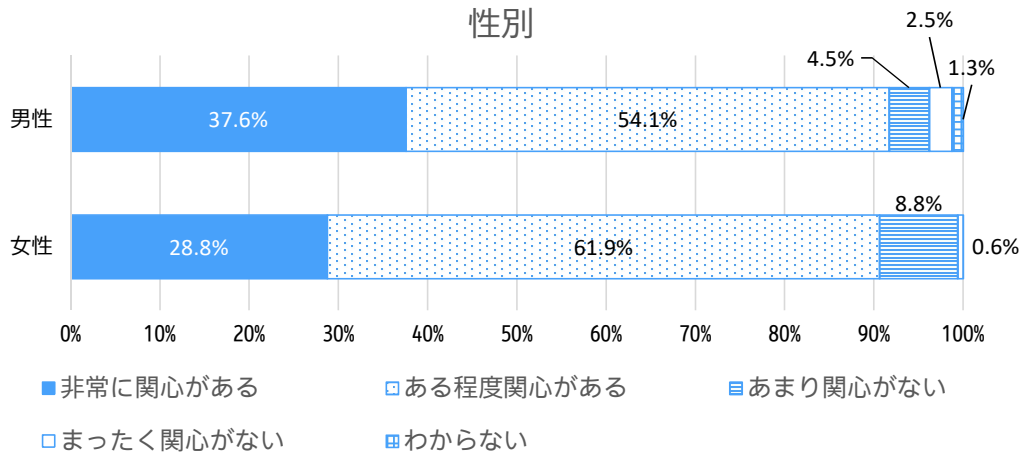
(回答者：317人)



年代別



性別

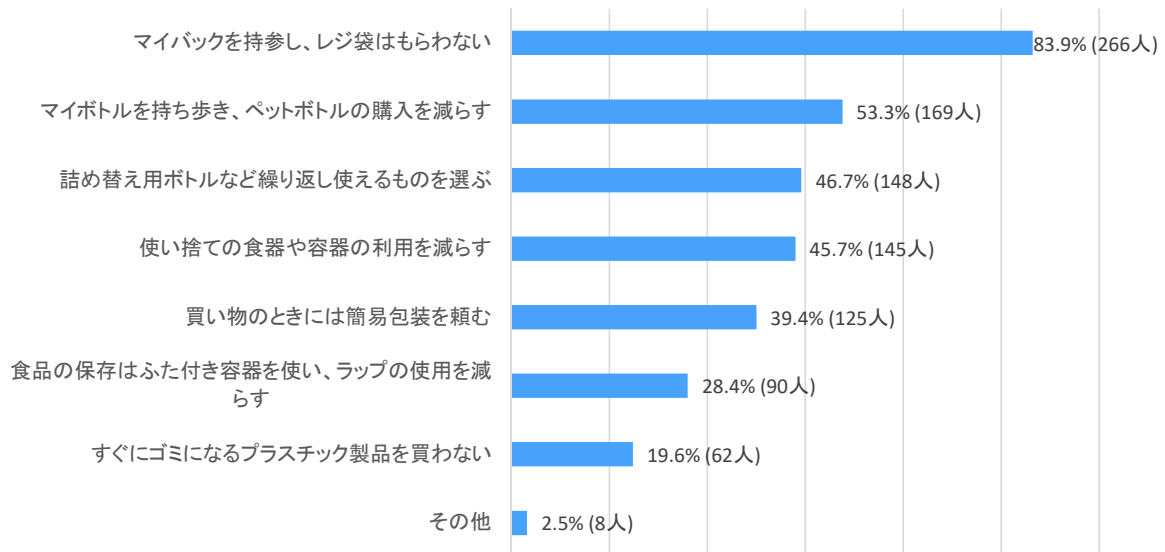


全体の33.1%が「非常に興味がある」、58.0%が「ある程度興味がある」と回答しており、合計で全体の91.1%となっている。  
年代別では60～80代で「非常に興味がある」と回答した割合が高い。



問16 プラスチックごみ問題を悪化させないために取り組んでいることは何ですか？  
(複数選択可)

(回答者：317人)



◆「その他」を選択した方の主な意見

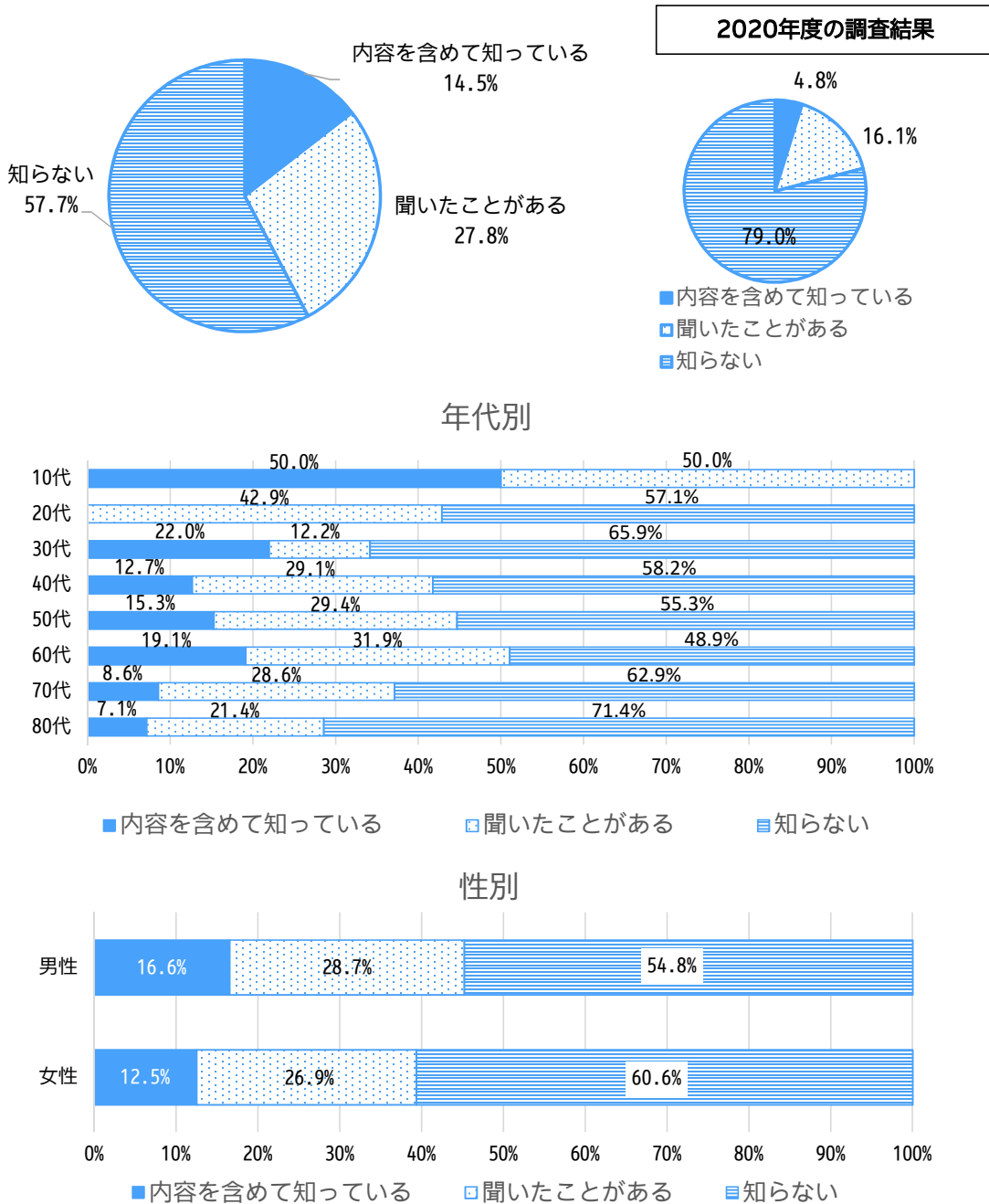
- ・スーパーのペットボトルリサイクル回収機の利用
- ・パック詰めのお惣菜を買わないようにしている
- ・プラ製品は便利なのでプラ削減を意識していない

「マイバッグを持参し、レジ袋はもらわない」が83.9%、次いで「マイボトルを持ち歩き、ペットボトルの購入を減らす」が53.3%、「詰め替え用ボトルなど繰り返し使えるものを選ぶ」が46.7%となっている。

### 第3章 生活全般や消費生活における意識や行動について

#### 問17 「エシカル消費（倫理的消費）」という言葉をご存知ですか？（1つ選択）

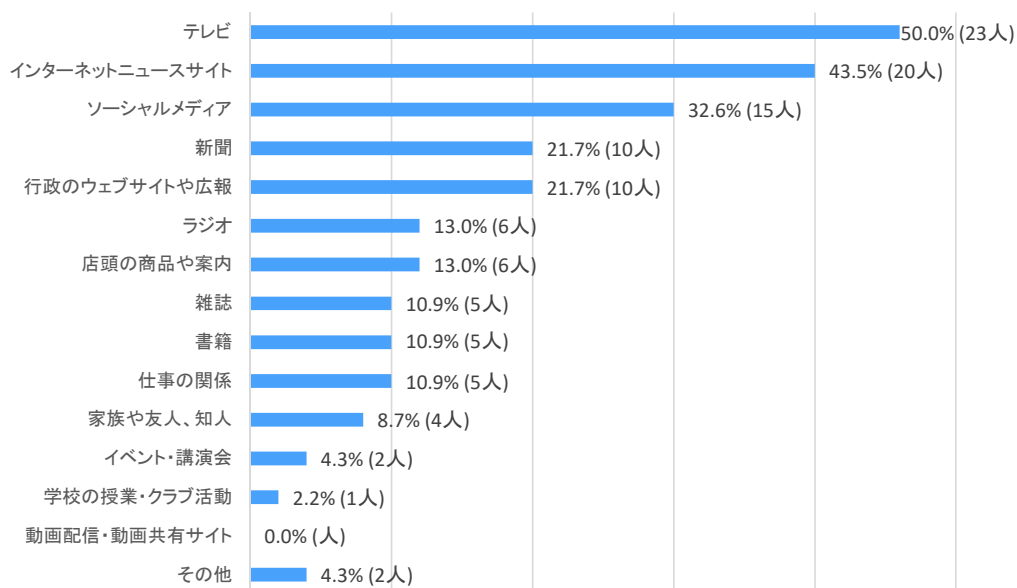
（回答者：317人）



「エシカル消費（倫理的消費）」については、57.7%が「知らない」と回答。「内容を含めて知っている」は14.5%で、前回調査時よりも9.7ポイント上昇しているが、十分浸透しているとは言えないことがわかる。

問18 問17で「内容を含めて知っている」を選択した方にお伺いします。何を通じて「エシカル消費（倫理的消費）」という言葉を知りましたか？（複数選択可）

（回答者：46人）



◆「その他」を選択した方の主な意見

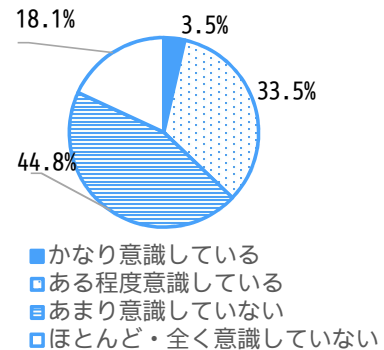
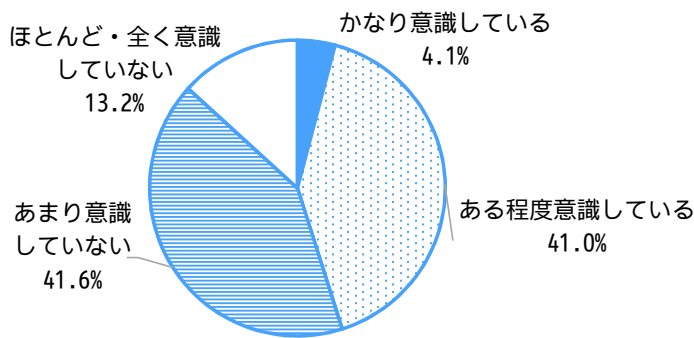
- ・地域活動
- ・エコ検定受験時

「テレビ」が50.0%で最も高く、次いで「インターネットニュースサイト」が43.5%、「ソーシャルメディア」が32.6%となっている。

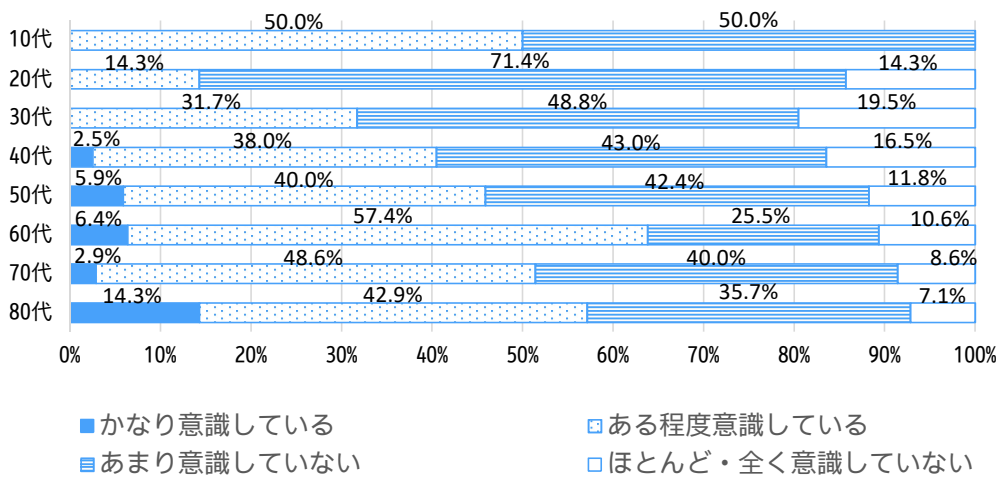
問19 環境に配慮されたマークのある食品・商品を選ぶよう意識していますか？  
(1つ選択)

(回答者：317人)

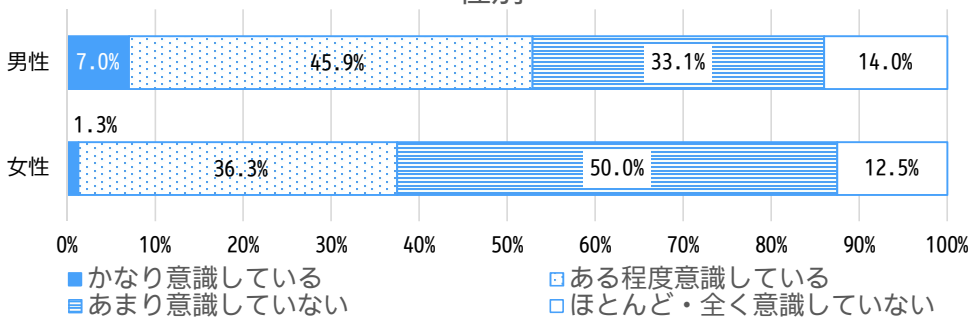
2020年度の調査結果



年代別



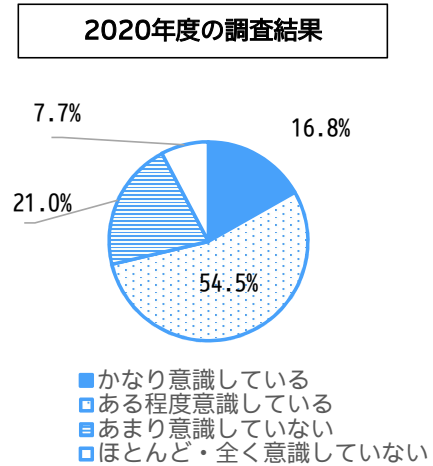
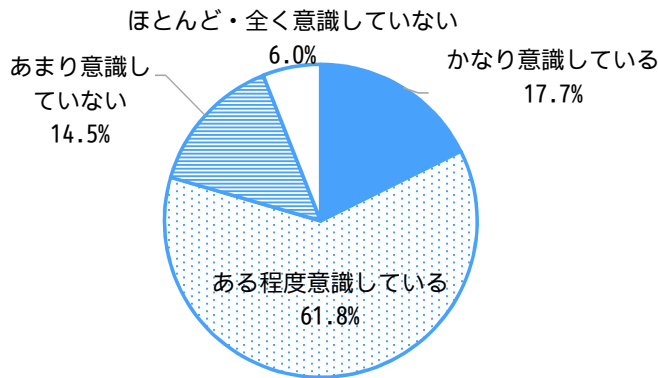
性別



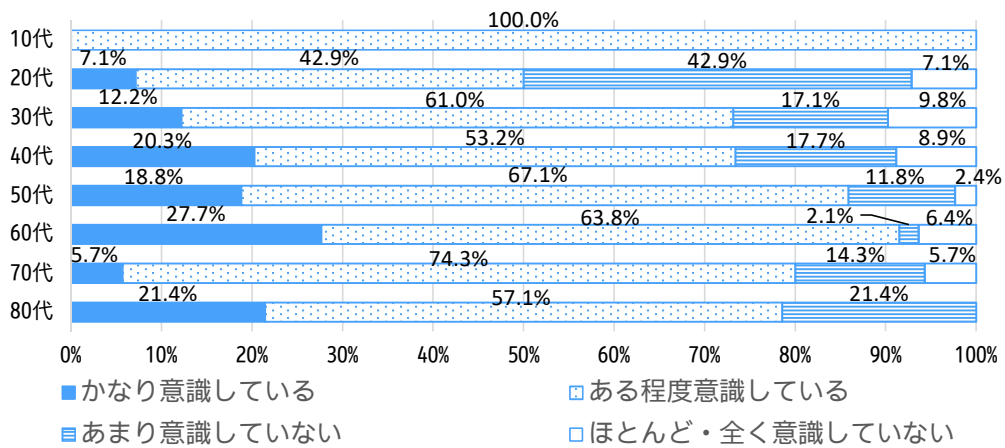
全体の4.1%が「かなり意識している」、41.0%が「ある程度意識している」と回答し、合計で45.1%となっている。若年層で「意識している」の割合が低い傾向にある。

問20 地元商品を購入して地産地消（※）を実践するよう意識していますか？  
（1つ選択）

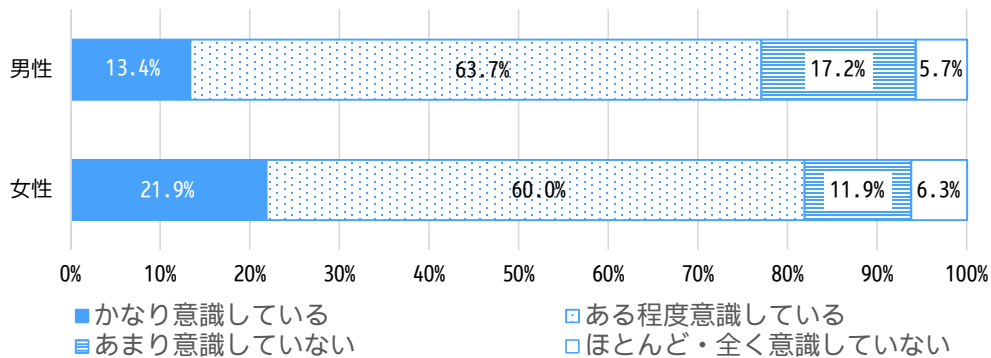
（回答者：317人）



年代別



性別



全体の17.7%が「かなり意識している」、61.8%が「ある程度意識している」と回答し、合計で79.5%となっている。前回調査時は、「かなり意識している」と「ある程度意識している」の合計は71.3%で、比較すると8.2ポイント上昇している。

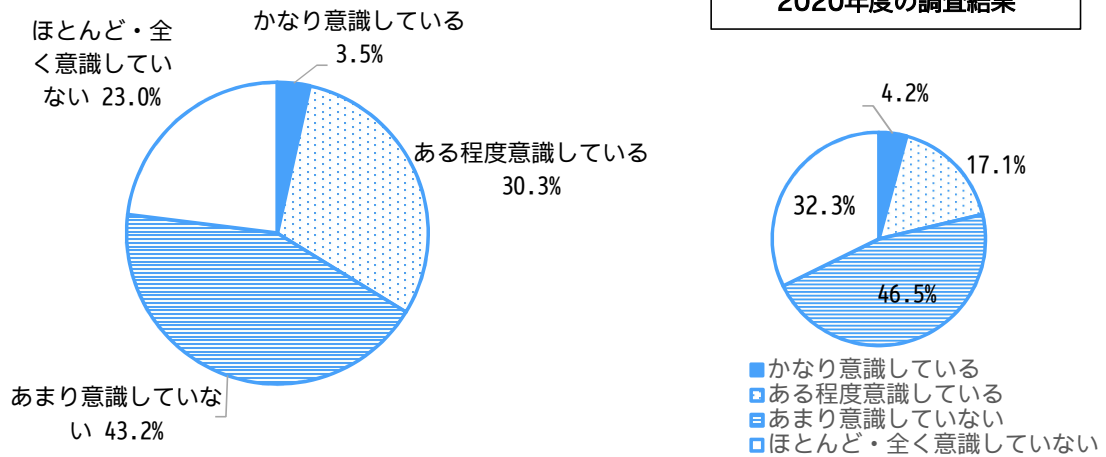
(※)地産地消：地域で生産されたものをその地域で消費すること

問21 フェアトレード商品（※）を選ぶよう意識していますか？（1つ選択）

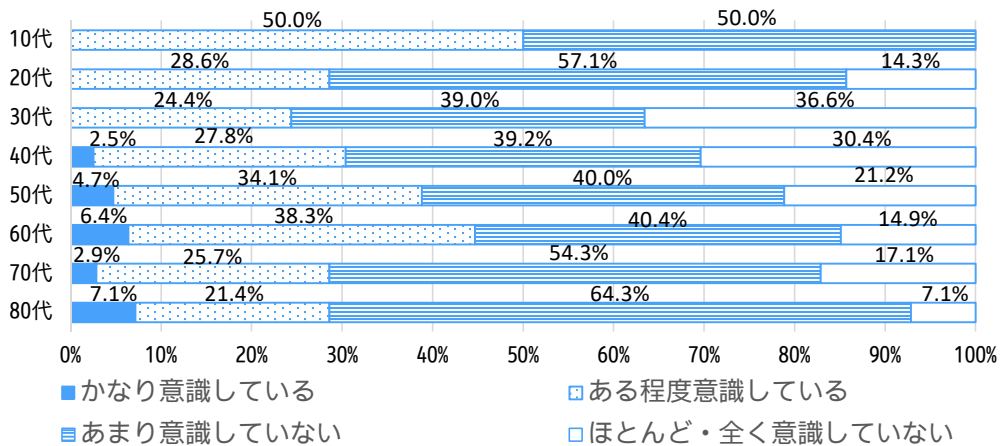
（※）フェアトレード商品：発展途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に取引された商品

（回答者：317人）

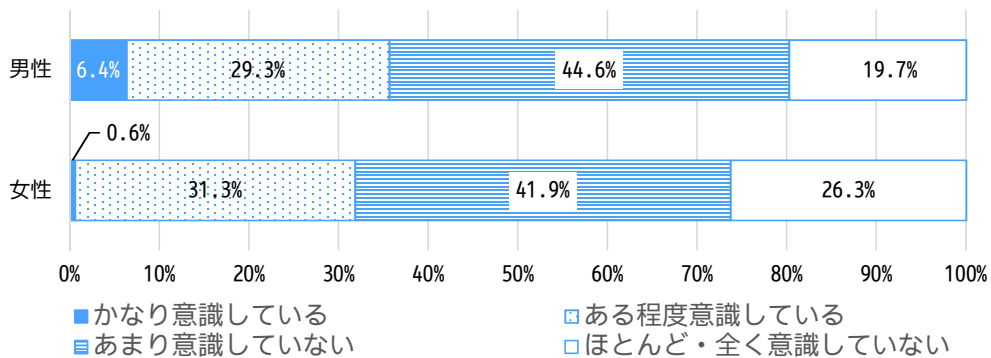
2020年度の調査結果



年代別



性別

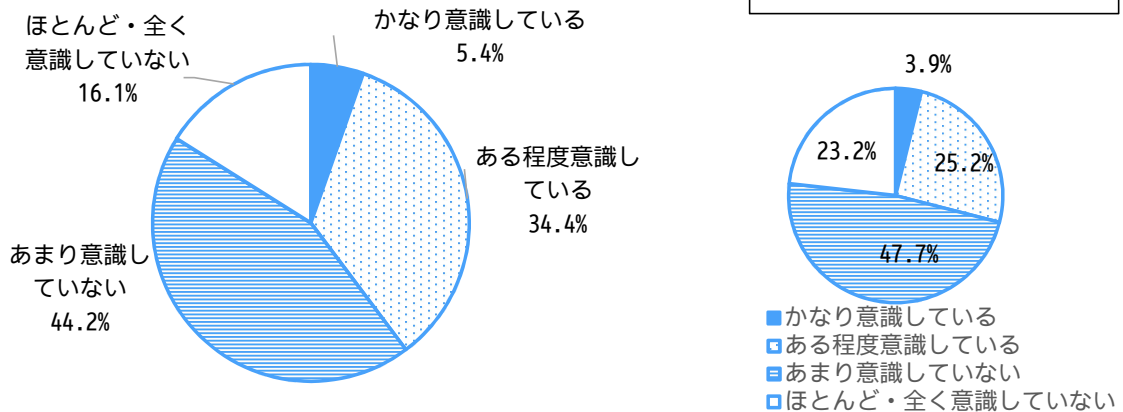


フェアトレード商品について、3.5%が「かなり意識している」、30.3%が「ある程度意識している」と回答し、合計で33.8%となっている。  
 前回調査時と比較すると12.5ポイント上昇している。

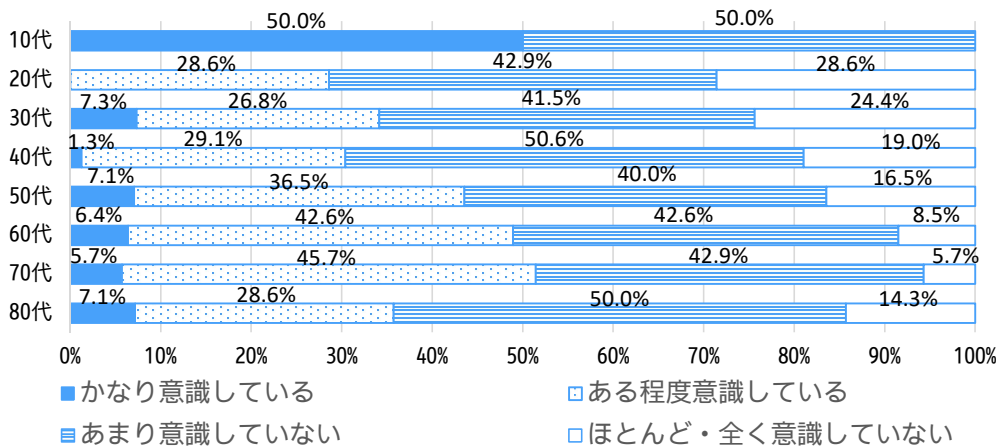
問22 社会貢献活動に熱心な企業の商品を選ぶよう意識していますか？（1つ選択）

（回答者：317人）

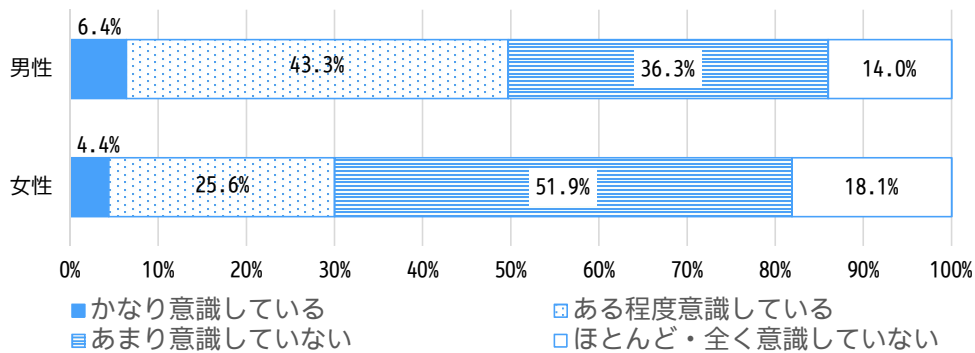
2020年度の調査結果



年代別



性別

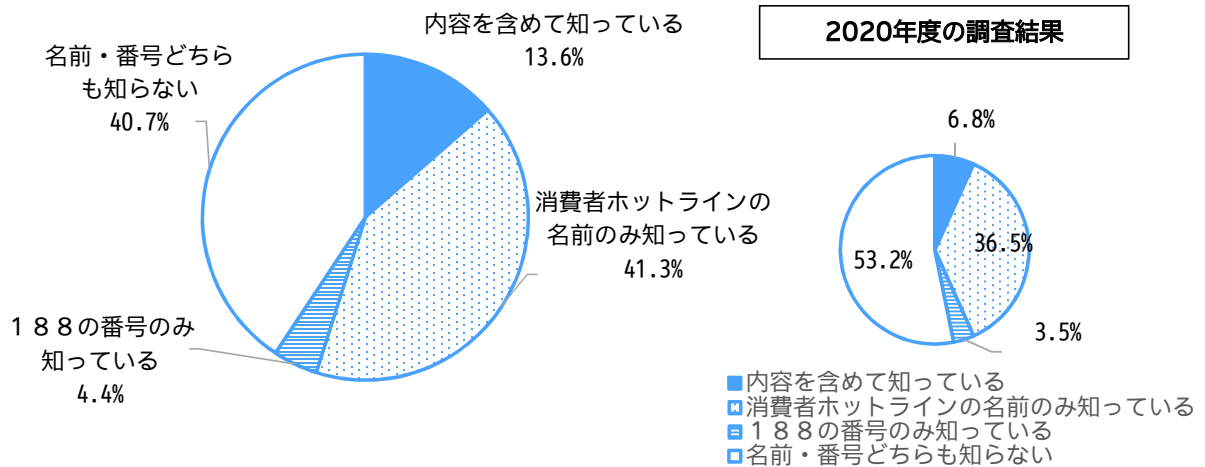


全体の5.4%が「かなり意識している」、34.4%が「ある程度意識している」と回答し、合計で39.8%となっている。

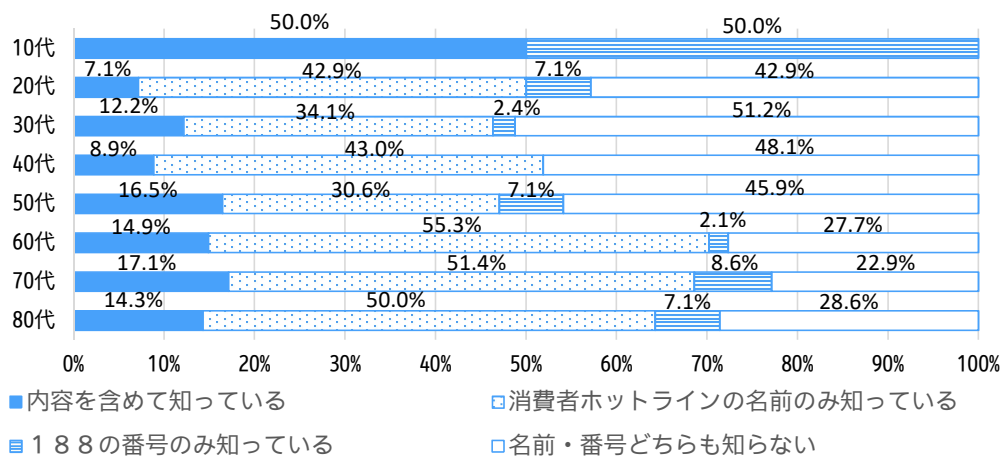
前回調査時よりも社会貢献活動に熱心な企業の商品を選ぶ方は10.7ポイント増加した。

問23 「消費者ホットライン」188（※）をご存知ですか？（1つ選択）

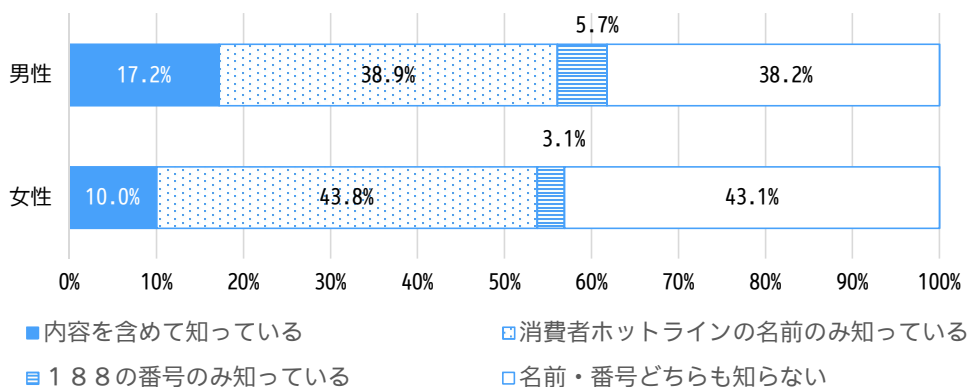
（回答者：317人）



年代別



性別



「消費者ホットライン」188について、「内容を含めて知っている」は13.6%で、前回調査時6.8%から6.8ポイント増加した。「名前・番号どちらも知らない」は40.7%で前回調査時53.2%から12.5ポイント減少した。

（※）「消費者ホットライン」188：電話で3桁の「188」番にかけると、お近くの消費生活センターや消費生活相談窓口につながり、消費生活相談の最初の一步をお手伝いするものです。

消費者庁 消費者ホットライン188  
 イメージキャラクター イヤヤン

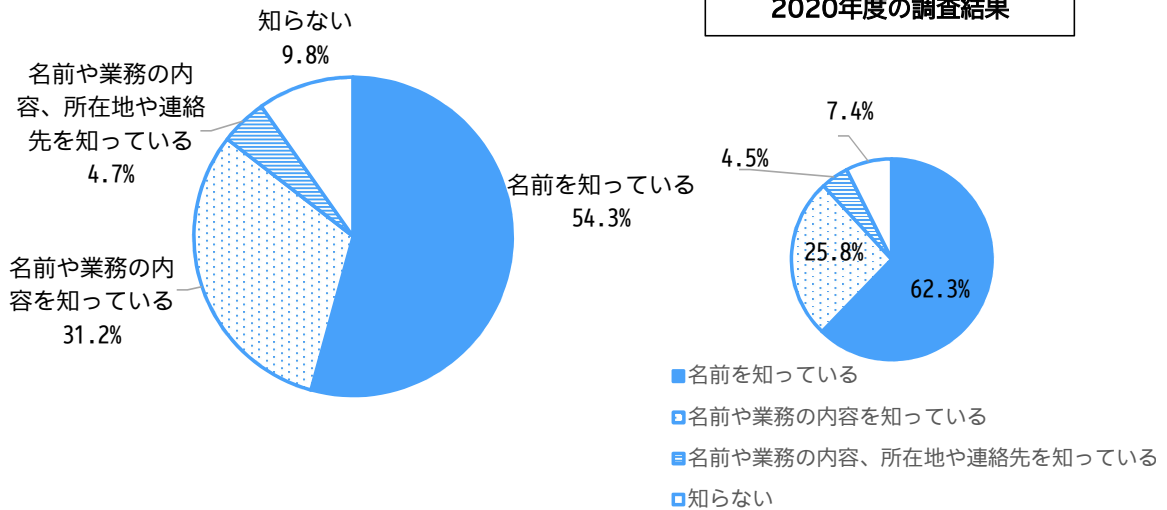




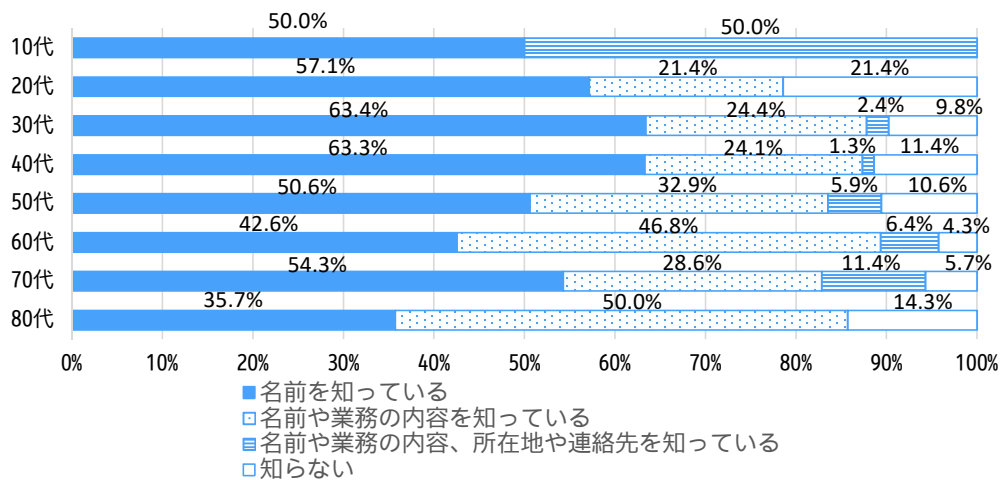
問24 「消費生活センター」をご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：317人）

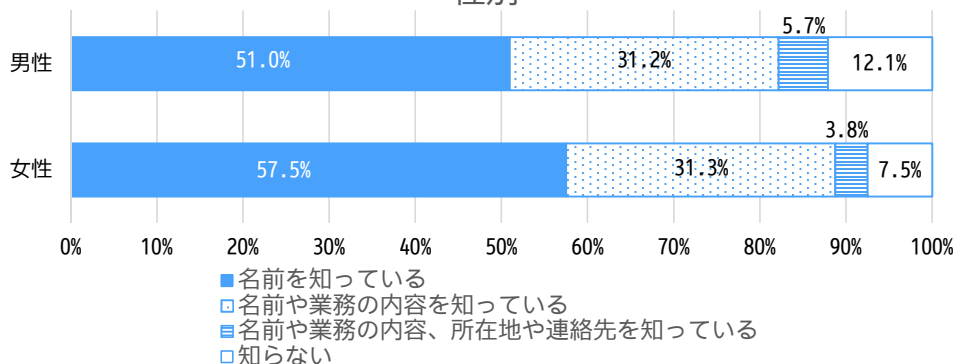
2020年度の調査結果



年代別



性別



「消費生活センター」について54.3%が「名前を知っている」、31.2%が「名前や業務の内容を知っている」、4.7%が「名前や業務の内容、所在地や連絡先を知っている」と回答。  
『知っている』の合計は90.2%となり、消費生活センターの認知度は高い。

問 25 その他、ご意見がございましたら、ご記入ください。（自由記述）

（回答者：50人）

食品ロス削減に向けた取組みについて

郡山の食品ロスについては、市をあげて減らすように取り組んで欲しいです。仕事の都合上、夜遅く買い出しに行きますが、賞味期限が近いものは安くなっていれば購入し利用したいです。なるべく地元の野菜を購入しています。（50代・女性）

広報こおりやまなどに郡山市としての参考献立表を載せて、献立表を見て料理をし、食品のロスをなくしたらよいと思う。（70代・男性）

職場で食料品を扱っています。必要以上の買ひだめ、陳列を崩すほどの反手前取り…毎日あきれながら仕事をしています。子どもへの意識啓発よりも実際に買い物をする主婦層への意識付けが大切だと思います。（50代・女性）

マイバック・マイボトル・マイ弁当箱等容器を持って行って弁当購入、コンビニでのコーヒー購入、測り売りの麦茶、アイスコーヒー等が買える体制にして下さい。まずは郡山市役所食堂でマイ弁当箱に弁当、マイボトルに麦茶等を測り売りするコーナーを作して下さい。利用します。（60代・男性）

家族構成による廃棄率なども分かれば、より対策が絞れるのではないのでしょうか。郡山市に移住してきて、大盛りの飲食店が多いように感じました。そのような飲食店での廃棄量も気になります。（80代・男性）

フードロスは、核家族が増える中、仕入れしすぎ、大量のセット販売と総菜の量の多さが問題であり、これらはすべて、消費者ではなく販売店の問題であり、市内大手スーパーが取り組むべき問題だと思います。（50代・男性）

「食品ロスについて」は、環境保護を考える上でも考える必要があると思うし、大切なことだと思います。市に対しては、「食品ロスについて」を目に見える形で発信して欲しいです。（60代・男性）

物が溢れていてお金さえ出せばなんでも手に入る時代です。物を大事にする。食べられるものだけ購入する…など親から子へ当たり前のことをきちんと伝えられていないのかもしれないかもしれません。家庭内の教育も大切だと思います。（50代・女性）

食品の値上げが加速しているのでさらに、ムダをなくす努力が必要だと考えます。フェアトレード商品も考えますが、やはり目先の金額に左右されます。（60代・女性）

ごみ削減に向けた取組みについて

資源の分別はできる限り行っていますが、例えばプラスチック、ペットボトルなど本当にリサイクルされているのか？など疑問を感じる場合があります。一方色々な物をリサイクルやアップサイクルすることが、本当に正しいのか？という考えも。例えばたくさんのエネルギーをかえて使うことになり、地球への負荷が大きくなるのではとも考えます。できる限り流通の川上でごみになる物を削減できるといいと思います。それには消費者の意識改革も必要ですね。（50代・女性）

我が家では食品くずはコンポストで堆肥化するので、可燃ゴミの排出は極めて少量で済んでいます。積極的な活用を促すべきではないのでしょうか。（80代・男性）

食品類の店頭販売にプラスチックトレイが使われているが、購入した後はすぐ廃棄物となって非常に無駄だと思います。（60代・男性）

最近まで首都圏に住んでいたが、郡山市はごみの分別について厳しくないため、全然分別できてるように思えない。特に、プラクル（※）の分別を促すように一般住民にしていくよう周知していったほうがいいと思う。（20代・女性）（※プラスチック製容器包装）

資源ごみ回収区分の不徹底、区分して出したのに回収業者は混ぜて回収している（事業系のゴミ）、等々、郡山市のゴミ回収行政の意識の低さに問題がありそうです。（60代・男性）

#### ごみ排出量に関する調査結果について

郡山市の食品ロス実態調査の内容、また郡山市の1人1日あたりのごみ排出量が全国の中核市62市中、最も多いこと等知らないことが多く驚いています。市政には関心を持っていると思いましたが、残念です。市の情報の出し方、受け取り方に、検討、反省がありそうです。（70代・男性）

郡山市がゴミの量第一位ということに驚き、悲しいです。私自身もゴミを減らそうと考えてはいても、実際実行しているか、と今回のことで考えさせられました。自分の行動を再度見直して、郡山市がゴミの量第一位から抜け出せるよう、努力したいと思います。（30代・女性）

郡山市がゴミ排出量ワースト一位を新聞で見ました。びっくりするのと同時にかっかりでした。一人一人がゴミに対して配慮して、変えて行く意識が必要だと思いました。ゴミが減らない時は、一定量以上はゴミ排出有料もありだと思えます。（40代・女性）

郡山のゴミが多いことは、広報等でよく耳にします。ただし、その理由を明確に聞いたことはないような気がします。ゴミの少ない地域との違いを明らかにし、市民に広報していかないと状況は変わらないと思います。（40代・男性）

#### その他

フードロスは、世界的な問題でもあるので、身近な所から削減できるよう取り組んでいきたい。（20代・男性）

賞味期限にこだわりすぎる。捨てる食材を出さない意識が必要だと思う。（50代・女性）